

連携・広報企画運営戦略室

専任担当准教授
児 玉 隆 治

連携・広報企画運営戦略室（以下、戦略室）は、基礎生物学研究所が行う対外的事業を円滑に運営するための組織として、2005 年（平成 17 年）4 月に新たに発足した。文字通り、基生研が国内外の研究グループや研究者と行う共同研究など連携事業の推進と実施におけるサポート、国際会議やセミナーの企画運営、さらに本研究所の研究活動とその実績を社会に公表するなどの広報活動を主な任務としている。構成員は、副所長を室長、財務担当主幹、庶務担当主幹を室員とし、専任担当として児玉隆治准教授および倉田智子博士研究員、このほか実務を担当する職員を若干名おいている。

現在戦略室が担当している下記リストの各項目の事業は、これまで年度ごとに担当教授が交代し、担当者は各自の経験に基づき、それぞれの方法で運営してきた。従って、例えば共同研究や国際シンポジウムにおける研究者の招聘にともなう事務処理には共通のノウハウがあるべきところが、横の連絡や縦の継続性が不足していたため、各自の経験によって得られた貴重な蓄積があまり受け継がれることもなく、新たな担当者はその都度時間の浪費と苦労を余儀なくされていた。戦略室の一つの任務は各事業に共通な部分を担当し、事業を円滑かつ迅速に遂行することである。また、基生研の主催する国際会議、シンポジウム等のポスターの作成や、ホームページの作成・維持、将来計画を検討・立案するための基礎資料としてのアーカイブの整備を統括すること、基生研の研究内容等を外部に紹介する広報活動などもその任務である。

戦略室の前身は、2001 年に設立された広報室であり、諸橋教授を委員長とする広報委員会の指揮のもとで、要覧などの出版物やポスター、基生研ホームページなどを企画・作製し、それまでになかった統一感あるデザインを実現した。戦略室は、広報室所属の職員に加えて、コンファレンス等の準備・運営に携わる英語に堪能な職員をおくことで、その実務体制ができあがった。また、彼らの指揮のために、専任担当として和田特任教授、児玉助教授、運営方針決定のために長濱室長、上野室員、諸橋室員が加わったものが、発足時の陣容である。その後、若干のメンバーの入れ替えがあったが、中でも博士研究員として加わった倉田智子は、研究者としての知識と経験を生かして、特にプレスリリースおよび基生研ホームページの刷新について重要な貢献をしている。また、英語を母国語とする Jason Emde 氏を英文校閲のために雇用し、英語出版物のレベルアップを図っている。

戦略室が深く関わっている OBC などを通じた研究者のコミュニティ形成や、EMBL との共同研究を通じた国際連携活動は、研究所の活動のなかで重要性を高めていくと考えられる。EMBL シンポで聞いたことだが、ある大学に最近一流の研究者が次々と集まってきており、彼らにその理由を聞くと、お金でも設備でもなくその大学の研究者コミュニティに身を置くことが研究活動にとってたいへん有

益であるためだという答えが返ってくるそうだ。大学共同利用機関としての基生研のあるべき姿は、所属する研究者のみならず、共同利用のために訪れる研究者にとっても、このようなサイエンスの活性中心となることであろう。戦略室では、所内の研究活動の全体像を把握したうえで、研究者間のコミュニケーションを促進し、研究者相互の利益と発展につながるような所内共同研究を活性化するための方策を考えていきたい。また、研究所の研究活動をあらゆるチャンネルを通じて広く社会に伝えることが今後ますます求められるであろう。戦略室は、そのスキルを向上させるよう努力するとともに、学術の世界だけでなく一般社会における基生研の存在感を高めるために新しい企画を創出していかなばならないと考えている。

戦略室の主な活動

1. EMBL(European Molecular Biology Laboratory) との共同研究の推進とシンポジウムやゲストセミナーの開催
2. 生物学国際高等コンファレンス (Okazaki Biology Conferences: OBC) の準備・運営
3. NIBB コンファレンスの準備・運営
4. バイオサイエンストレーニングコースの準備・運営
5. 基生研ホームページの維持管理
6. 「基生研ニュース」の企画・編集
7. 要覧、Annual Report の編集・作成
8. 各種パンフレット・ポスターの作成
9. プレスリリースの準備と配信
10. 来訪者・見学者への対応

